

有機フッ素化合物（PFOS等）残留実態調査の追加調査の結果について

令和6年3月に沖縄県が公表した有機フッ素化合物（PFOS等）の水質及び土壌残留実態調査において、本町の土壌から比較的濃度の高い数値が検出されたことを受け、本町では追加調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。

土壌中のPFOS等については基準値が定められてないことから、調査結果に対して安全性を評価することはできませんが、本町では今後も適切な調査や情報発信を行い、町民生活への影響や不安の解消に努めてまいります。

前回調査結果（単位：ng/L）

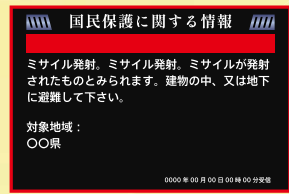
採取場所	PFOS	PFOA	PFHxS
庁舎敷地内 A地点	92	61	0.6

追加調査結果（単位：ng/L）

採取場所	PFOS	PFOA	PFHxS
庁舎敷地内 B地点	6.4	17	0.2
庁舎敷地内 C地点	24	22	0.6

お問い合わせ 環境保全課 TEL:098-985-7126

弾道ミサイル 飛来時の行動について



弾道ミサイルは、発射から
わずか10分もしないうちに
到達する可能性があります。



弾道ミサイルが着弾した場合、激しい
爆風や破片などにより、身体へ大きな
被害を受ける可能性があります。



弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合は、
Jアラートを通じて屋外スピーカーや携帯電話の緊急
速報メール等によりメッセージを流します。



メッセージが流れたら直ちに以下の行動をとってください

弾道ミサイルが上空を通過した場合など避難行動をとる必要がなくなった場合は、避難の呼びかけを解除します。



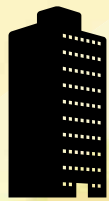
屋外
にいる場合

爆風や破片などを避ける

近くの建物の中

または 地下へ

緊急一時避難施設[※]をはじめ、
コンクリート造り等の頑丈な建物
や地下街、地下駅舎等の地下施設
へ避難することが望ましいですが、
それ以外でも構いません。



もしも 近くに建物がない場合は

物陰に身を隠す
または 地面に伏せ
頭部を守る



屋内
にいる場合

爆風で割れた
窓ガラスなどを避ける

その場で安全を確保し

窓から離れる

または
窓がない部屋へ



※ 緊急一時避難施設：弾道ミサイル攻撃による爆風等からの直接の被害を軽減するための一時的な避難に活用する観点から都道府県知事等が指定する施設。

詳しくは、内閣官房国民保護ポータルサイトへ

国民保護

検索

